

《対策のポイント》

水産資源の持続的な利用や水産業の成長産業化を実現するためには、ICT等の水産新技術を活用したスマート水産業を推進することが重要です。

漁業者が自律的にスマート水産業を実践できるよう人材の育成など推進する基盤づくりを行い、民間企業と漁業者との活動を推進し、水産現場への新技術の実装を加速化させます。

《目標》 本県水産業の持続的な発展を目指して、漁業者が自主的・自立的にスマート水産業を実践する。

〈対策の内容とイメージ〉

1 民間企業等がもつ新技術を本県水産現場に導入

（１）スマート化を推進する人材の育成

☞ 研修会や実証試験への参加などにより育成

【スマート化を推進する人材の育成】

①新技術に対する負の先入観の払拭

【新技術を知る】 研修会、現場説明会

- 漁業者が新技術や成功事例を学ぶことができる研修会を開催
- 操業情報などのデータを提供することのメリットや、データ保護の仕組みを説明

②スマート技術を身近なものとして実感

【新技術を試す】 実証試験に参加

- 水産現場のニーズを踏まえた民間企業が、漁業者と協働して実証試験を実施、効果を評価するなど、漁業者に体験の場を与える

③現場にスマート化を分かりやすく伝える

【新技術を導入・普及する】

- 成功事例を各水産現場のニーズに合わせて横展開
- 必要に応じて機器導入に係る支援

（２）民間企業等がもつ新技術を本県水産現場に展開

☞ 本県水産現場にあった技術を民間企業等が開発、スマート化を推進する人材が県と連携しスマート化を横展開する

デジタル操業日誌



- ▶ 操業情報（日時、場所、操業回数、漁獲物など）をスマートフォンやタブレットに入力、電子データ化
- ▶ **A I** を用いた**漁場予測**により、**操業の効率化や後継者への技術伝承**に活用

2 県が主体に取り組む新技術の開発・導入

（１）国と連携した情報システムの構築とデータのフル活用

☞ ICTを利用して水揚情報を電子的に収集する「漁獲報告システム」の構築

（２）県が提供する海況情報の高度化（水産情報ネットワークの情報強化）

☞ 千葉県水産情報通信センターがHPで提供する海況情報の高度化など

漁海況予測システム



- ▶ 人工衛星、調査船、漁業者の観測データをもとに、水温・潮の流れを数日先まで予測しスマートフォン向けに提供
- ▶ **水温・潮の流れの予測から魚の分布を判断、操業の効率化、省力化**に活用